医療機関ごとの機能と役割について

医療連携・患者支援センター　神場 譲

現代の日本医療において、医療機関ごとに役割・機能が国より求められており、遂行することで患者さん・家族の安心した生活を目指しております。役割は多岐に渡っておりますが、その中からいくつかの機能についてご紹介をさせていただきます。

① 一般病棟（東邦大学医療センター佐倉病院）

急性期治療（手術・点滴加療など）を中心に短期間の入院で治療を行う医療機関です。治療後に患者さんや家族の状況に応じて退院先を検討していきます。病気やケガなどの影響で入院前の生活維持が困難な場合はご本人・ご家族と相談の上で新たな療養先の選定支援をさせていただきます。当院では各病棟に退院支援職員がおり、今後の生活に向けた相談を承っております。

② 地域包括ケア病棟

急性期治療後に継続的な加療・リハビリを行い在宅復帰を目指す医療機関です。

入院期間は最大で60日間となります。

③ 緩和ケア病棟

悪性腫瘍の終末期の患者さんの疼痛コントロールや精神的苦痛の除痛などを行う医療機関です。

積極的な治療は行わず緩和医療を受けたいとの患者さんの意思表示が必要となります。

④ 長期療養型病棟

急性期治療後、慢性的な医療行為や療養が必要となる方を対象として、長期にわたり入院加療を行う医療機関です。③と同様に疾患に対して積極的な治療は行わず、症状緩和を中心とした加療を行います。症状緩和を目指しております上、急変時の医療行為（延命行為など）に制限が生じることがあります。医療保険を使用する病棟と介護保険を使用する病棟があります。

⑤ 回復期病棟

脳卒中・骨折などの加療後に在宅復帰を目指し、積極的なリハビリを行う医療機関となります。

目的としては入院前の生活実現に向けたリハビリを行うことであり、リハビリの時間は最大で1日3時間実施します。（ご本人の体調や医療機関ごとに多少の時間差はあります）

受け入れに際しては指定された病名があり、病状として安定していることが必要です。

各機能に応じて、対象となる患者さんを制限しており、入院や転院には相談が必要となります。

ご紹介した機能はほんの1部であり、詳細などは**医療連携・患者支援センターでも相談を承っておりますのご気軽にご相談ください。**

外来受診のご案内

- **開扉時間**　8：10
- **受付時間**　初診 8：30～11：00　再診 8：30～11：00
  ※一部診療科では午後の受付となる場合があります
- **休 診 日**　日曜日・祝祭日・第3土曜／創立記念日（6月10日）
  年末年始（12月29日～1月3日）
- **代表電話番号**　043-462-8811
  予約変更専用　043-462-0489（平日14時～16時）
- **健康保険証（原本）、その他の公費負担受給者証（原本）を必ずご持参下さい。**
- 各科外来担当医はホームページ
  http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp　をご覧ください。

お見舞いについて

- **面会時間**（制限中）

平　　日	15:00～19:00
土・日・祝日 創立記念日 年 末 年 始	11:00～19:00 （2階西病棟13:00～19:00）

防災センターで面会手続きの上、お見舞いカードを装着してお入り下さい。

時間内での面会が無理な場合は看護師にご相談下さい。状況に応じ時間外面会許可証を発行いたします。

― 編集後記 ―

世界中が新型コロナウイルスに翻弄され、1年以上の月日が経ちますが、新しい季節はかわらずにやってきます。これから四季折々の花が咲き、新緑が芽吹き、めぐる四季をどれだけ楽しめるかはわかりませんが、新しい生活様式を取り入れながら、ワクチンにも期待をしつつ、私たちの日常生活を少しでも取り戻したいですね。

本誌がお手元に届くころには、外出などの制限が少しでも緩和されていることを願っています。

（看護部　林）

編集・発行：東邦大学医療センター佐倉病院　広報委員会
〒285-8741　佐倉市下志津564-1
TEL.043-462-8811（代表）
発　行　日：2021年4月【年4回（1・4・7・10月）発行】
U　R　L：http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp

Toho University Sakura Medical Center

SAKURA DAYORI
さくらだより

～患者さんと病院を結ぶ情報誌～

VOL.46　SPRING　2021
東邦大学医療センター佐倉病院

基本理念

- 質の高い医療を安全に提供する病院
- 地域に貢献する病院
- 人間愛を共有する病院
- 楽しく明るくチャレンジする病院
- 良き医療人を育成する病院

患者の権利

- 質の高い公正な医療が受けられます
- 個人の尊厳が守られます
- 個人のプライバシーが保障されます
- 必要な医療情報の説明が受けられます
- セカンドオピニオンが保障されています
- 医療行為について自己選択ができます

新型コロナウイルス ワクチン接種について

東邦大学医療センター佐倉病院
管理担当副院長　医療連携・患者支援センター長　吉田 友英

桜の花が咲き乱れる4月は新年度が始まり、入園式、入学式、入社式などと多くの方が新しい一歩を踏み出す季節です。しかし昨年は新人たちを迎える様々な行事が新型コロナウイルス感染症のために中止となり、桜の花が散るのを寂しい気持ちで眺めていたことを思い出します。

そんな当たり前だった生活に戻るための鍵になるのが、**新型コロナウイルスワクチン**（以下ワクチン）です。当院は、専用冷凍庫の配置を受けた基本型接種施設として地域の医療機関と連携しております。医療従事者の先行接種は2月17日に始まり、当院でも3月6日には米ファイザー社製のワクチンが配送されました。当院の職員へのワクチン接種は3月15日から開始しました。4月以降には高齢者の接種が始まります。このワクチンについては、様々な情報がメディアでも取り上げられています。佐倉市では、医療機関での個別接種と大きな会場での集団接種のハイブリッド形式で行なう予定ですが、自治体により接種方法が異なりますので、ご確認ください。

また、マスコミでは様々なワクチンの副反応が指摘されていますが決して多くはありません。アナフィラキシーは、1月27日時点での米国疾病予防管理センター（CDC）のまとめによると、ワクチンの接種後、100万接種当たり4.7例と報告されています。その他の副反応は、発熱、疲労感、頭痛、筋肉痛などがありますが、いずれも一過性です。ワクチンへの疑問や不安は多いと思いますが、その際はまずかかりつけ医にご相談ください。日頃から患者さんの身体のことを最も理解しておりますかかりつけ医がいれば、このような非常事態ではとても頼りになります。

新型コロナウイルス感染症にかからないように、また、万が一かかっても重症化しないためにワクチンを受けることが可能な方は、受けていただきたいと思います。多くの方がワクチン接種を行うことで、集団免疫がつくられ、これが以前の穏やかな生活を取り戻すことに繋がっていくと思います。

しかし、この感染症を完全に終息させるためにはワクチン接種が広まっても、コロナ禍で取り入れた新しい生活様式である手洗い、マスクの装着、ソーシャルディスタンス、黙食は継続していくことが大切になります。

一刻も早い終息を願い、地域の医療機関の先生方や行政との協力体制を一層強化して、地域住民へのワクチン接種が進むことで、皆さんの健康を守るために尽力していきたいと思います。

循環器内科カテーテルアブレーション治療再開のお知らせ

循環器内科　清水 一寛

皆さんこんにちは。コロナウイルスで日本中が大混乱の中、健康に気を配りながらの生活で大変かと思います。されど欧米よりだいぶましですから、日本社会の総合力で、心配りをしながら皆で頑張って乗り越えていきましょう！

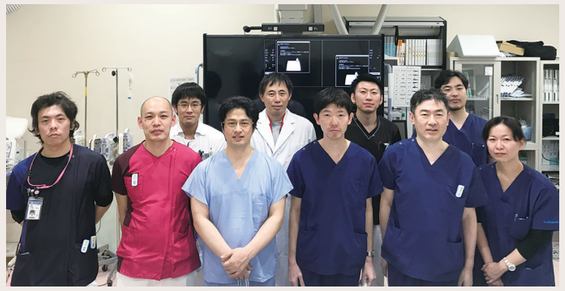
野呂眞人医師退職後、頻脈性不整脈に対するカテーテルアブレーション治療は休止となっておりましたが、1月より、東邦大学医療センター大森病院から不整脈専門医の木下利雄医師をお迎えし、また済生会横浜東部病院に不整脈診療の勉強に出向されていた杉﨑雄太医師も戻られ、新メンバーで不整脈診療をリスタートしております。

木下医師は、東邦大学医療センター大森病院と三井記念病院で研鑽をつまれ、ちょうど『心・技・体』が充実期に入ってきた医師です。杉﨑医師は、2年9カ月の出向で、見違えるように経験値を上げて戻られ、今、まさに伸び盛りです。大学病院の良い所は、情熱を持った若い医師が、次々と誕生してくることです。東邦大学からは、医師だけでなく、看護師、薬剤師も毎年卒業生が輩出されています。また身近な方が習志野にある東邦中学や東邦高校に通われているケースもあるかと思います。

この機会に、東邦大学学祖、額田晋先生のお言葉『自然・生命・人間』をご紹介させていただきます。『しずかに自分の心を大自然の偉大な力に通わせながら人間として生きられるだけ生きそして社会のため人類のためにはたらけるだけ働いてみようではないか』この書は、佐倉病院２階正面玄関を入って右手の正面カウンター左側の壁に掲示されておりますので、機会があればご覧ください。現在国難ですが、疾患はコロナばかりではなく、また社会生活、学校生活は形を変えながらも適応し進んでいきます。我々のできることは限られていますが、少なくとも佐倉地区の住民の方が、この地区に住んでいて良かったなと思えるような環境作りのため、地域の先生方と連携しながら、若い医師の勢いも借りて地域医療に貢献していきたいと思います。

我々のグループは、心臓リハビリテーションデータベースというものを作っておりまして、入院患者さんの疾患の傾向を調査し、種々の循環器病の病態の解明に取り組んでおります。それを解析すると心不全入院患者さんの約50%が心房細動という不整脈で、高齢になるにつれ、その割合は増加していました。そして心房の機能は、心臓と血管の連関のなかで、大事な役割を果たすことも生理機能検査部における心臓超音波と血管機能（CAVI）の研究でわかってまいりました。原因となる動脈硬化リスク（高血圧や肥満、睡眠時無呼吸症など）の管理も今後益々大事になるかと思います。

人口の高齢化と共に増加する循環器病に対し、一例一例真摯に診療していきますので、地域在住の皆様におかれましては、東邦大学医療センター佐倉病院循環器内科を頼りにしていただければと存じます。ホームページもアップデートしましたので、是非ご覧下さい。



木下　杉﨑　筆者

佐倉病院公開講座のお知らせ

新型コロナウイルス感染症のため公開講座の開催を中止しております。Withコロナに向けて、さまざまな施策・啓発が行われていますが、未だに多くの新規感染者が報告され、リバウンドや変異株の拡大が危惧されています。ワクチンが皆様に届くのもまだしばらく時間がかかりますし、今後の状況も見通せません。病気は感染症だけではなく、通常の診療・治療も維持しなければなりませんが、皆様のご協力が必要不可欠です。

今年度の公開講座について再開時期・開催方法を検討中です。詳細につきましては院内掲示や当院ホームページなどでお知らせする予定です。

感染症対策への取り組み

- 院内すべての方にマスク着用および手指消毒の徹底をお願いしております。
- 随時体温測定などをおこない、体調の管理・感染予防に努めております。
- 感染症対策のために入院患者さんへの面会を制限しております。

ストレスフルな毎日が続いておりますが、予断を許さない状況に変わりありません。改めて身を引き締めて頂き、「新しい生活様式」の実践と、感染対策・予防に努めてくださいますようお願い申し上げます。

2021年度（上半期）診療体制変更（祝日・土曜）について

以下の祝日は平日診療体制、土曜日は休診とさせていただきます。

祝　日	土　曜
2021年 5月 5日（水）	2021年 5月29日（土）
2021年 7月22日（木）	2021年 7月 3日（土）
2021年 8月 9日（月）	2021年 8月 7日（土）
2021年 9月20日（月）	2021年 9月 4日（土）

平日診療体制
※平日同様に外来・手術等をしております。

休　診
※救急のご依頼はお問い合わせください。

さくらだより　vol.46　Spring 2021

脳神経外科教授就任のご挨拶

根本 匡章

根本 匡章 教授

2021年4月1日付けで東邦大学医療センター佐倉病院脳神経外科教授を拝命いたしました。

私は平成4年東邦大学医学部を卒業後、東邦大学医療センター大森病院脳神経外科に入局いたしました。以後海外留学や、他の医療機関での診療経験を積み、平成30年4月から東邦大学医療センター佐倉病院で勤務しております。

当病院には、脳卒中センター（SCU）があり、脳卒中（脳梗塞・脳出血・くも膜下出血）の患者さんの受け入れを円滑に行える環境を整えております。それにより脳卒中発症後すぐに治療を開始することができ、また早期離床を目指し、患者さん個々の症状に合わせて早期にリハビリテーションを行うことが可能となっております。また急性期治療が終了後、必要であれば、リハビリテーションを主体に行える病院への転院も迅速に行っております。それにより脳卒中患者さんの少しでも早い社会復帰を目指しております。

脳神経外科の診療分野は、脳卒中以外にも、脳腫瘍、外傷、パーキンソン病を含めた機能脳神経外科、小児奇形など、多岐に及んでいます。当病院の脳神経外科医局には、専門医が4人常勤しておりますので、幅広い脳神経外科疾患の診療および治療が可能です。特にパーキンソン病などに対する脳深部刺激療法（DBS）は、治療可能な医療施設が少ない中、当院では積極的に行っています。脳神経外科は緊急に対応しなくてはいけない疾患が多い診療科の一つです。救急に関しては、前述の脳卒中以外にも、外傷などの緊急性の高い疾患は、当直医または拘束医が24時間体制で対応できるようにしております。そのため、すぐに検査を行い、緊急手術の適応を迅速に判断できるような体制となっております。少しでも、地域医療に貢献できるように、当院脳神経外科部門を盛り上げて行きたいと思っております。何卒よろしくお願い申し上げます。

『ナイトヘルパー』誕生です！

看護部　鶴ヶ崎 和子

当院では、2020年10月に入院病棟での『ナイトヘルパー』を導入しました。これまでヘルパーは早朝から夕方までの勤務シフトでしたが、夕方から5時間働くヘルパーの新たな採用です。遠方近隣さまざまな方面から通勤し、ライトグリーンのユニフォームを着用し勤務しております。

現在17名のナイトヘルパーが9つの病棟で働いています。ヘルパー経験のある方以外に、他院で検査や処置等介助の仕事をされている方、現役学生・鍼灸師・囲碁インストラクター・コマーシャル作成・クリーニング関係・飲食関係等、みなさん様々な経歴・職歴です。コロナ禍でこれまでの仕事状況が厳しくなり応募された方も少なくありません。まだ数か月の勤務ですが、「患者さんに“ありがとう”と言われたり、看護師さんに“助かります”の言葉をいただけたり、うれしいだけではなく感謝です！」という謙虚な声がありました。

さらに、「看護師になる夢に近づけてうれしい」・「病院勤務している家族の仕事を知ることができてよかった・感動した」という反応や、「介護職員研修の受講を開始しました。ステップアップしたいです！」という声も聞かれ、ナイトヘルパーさんの姿勢や意欲に良い刺激をいただいています。

まずは、ナイトヘルパー自身が、「この病院で働けてよかった」と思えることが大事と思っています。それが、ひいては佐倉病院をご利用される方々に、「この病院を選んでよかった」と思えることに繋がるものと信じています。

ヘルパーが遅くまで勤務していることで配膳・下膳やメッセンジャー業務を依頼でき、夜勤看護師の業務負担は大きく軽減します。おのずと患者さんへの直接ケアに看護師は専念できます。また、日中行き届かない器械や物品の整備、さらに、このコロナ禍に重要な環境清掃も念入りにでき、日中ヘルパーの負担軽減にも繋がっています。

まだ慣れないところは多々ありますが、安全に業務ができるように看護師がフォローいたしますのでご安心ください。新しい仲間を迎え、佐倉病院看護職は一丸となって、患者さんやご家族にきめ細やかなお手伝いと笑顔を届けられるように頑張ります。